

# こうすればアワード・ハンティング を楽しめる！

JR1DTN 佐藤 哲

本章では、これからアワード・ハンティングをやってみたい方、また少しはアワードを持っているけれども、もっと本格的にやってみたいという方のために、アワードを目標にした運用スタイルとアワード申請のしかたについて紹介します。無線設備や運用方法、周波数やモード、QSLカードの交換、アワード申請書の書き方など、実例を挙げながら説明します。

## 1-1 アワードを楽しむための無線設備

アワードを楽しむためには、まず第一に、アマチュア無線を運用しなければなりません。SWLなど、アマチュア・バンドの受信だけを楽しむ方もいますが、本書では開局して電波を出すことを前提に話を進めます。

### 1-1-1 3アマを取得しよう！

アマチュア無線局を開設するにあたっては、各自それぞれの住環境などにより、「マンション住まいで大きなアンテナが上げられない」、「庭が狭くてHF帯のアンテナが上げられない」……など、理想的な無線環境が得られないことがよくあります。

しかし、利得の少ないアンテナでも、効率のよい運用方法(呼び方などのオペレーション・テクニックや混信に強いCWモードでの運用など)である程度はカバーできます。しかしながら、山に囲まれた地域など地形的に不利な場所からの運用は、かなりのストレスになってしまうかもしれません。その場合は、移動運用をお勧めします。受信も送信も、劇的に変化するはずで、また、出力を多く出せる上級ライセンスを取得するのも一手でしょう。

本書の付属CD-ROM、そして本章の囲み記事で紹介している7N2JZT 本田さんのシャックは、トランシーバ1台とパソコンだけというシンプルな構成です。HF帯で運用するのであれば、3アマを取得して50Wの出力が欲しいところです。また、移動運用の際も10Wと50Wの出力では信号の強さに違いが出てきます。



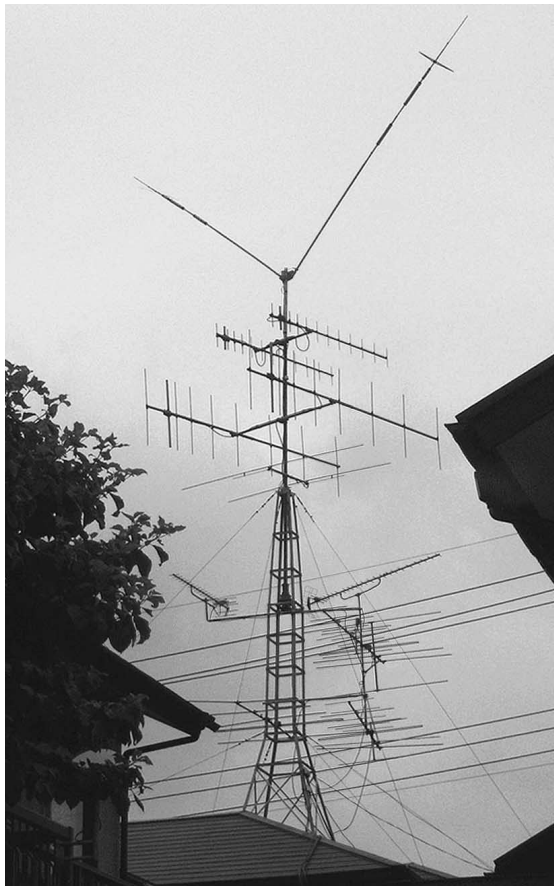


写真1-1 JF1GNC 田名網さんのルーフタワーを利用したHFとV/UHFのアンテナ。これらのアンテナで7MHzや21MHzをはじめV/UHFでも国内QSOが十分に楽しめる。JAG(ジャパン・アワードハンターズ・グループ)メンバー



写真1-2 筆者(JR1DTN)のモバイル

クルマのトランクに7～430MHzのアンテナを搭載した。リグ本体はトランク内に収納、コントロール・パネルのみダッシュ・ボードに設置



写真1-3 現代のモバイル機は、写真のようなコンパクト機でもHF～V/UHF帯をカバーする

写真1-1に示すのは、JF1GNC 田名網さん宅のルーフタワーに展開したHF帯のアンテナです。さほど大きくないアンテナですが、50W出力により、いっそうアワード・ハンティングが楽しめます。

## 1-1-2 野外で楽しむアマチュア無線

移動運用は、本格的な設備をもったモバイル・シャックをはじめ、写真1-2、写真1-3に示す筆者のように、V/UHF帯モバイル機の感覚で設置したHF～V/UHF帯のオールバンド無線機に、自動でチューニングするモバイル・アンテナをクルマに取り付けたお手軽HFモバイルまでさまざまです。

今日では、便利な移動用品も多数販売されているので、条件に恵まれない自宅からストレスのたまる運用をするより、移動運用で多くの局から呼ばれる立場になるほうが楽しめます。

実際、10MHzは電信がメイン・モードですが、移動運用がたいへん盛んに行われています。また、14MHz、18MHzも国内がひらけると安定しているので、できれば第2級アマチュア無線技士を、少なくとも第3級アマチュア無線技士の資格は取得しておきたいところです。

## アワード・ハンター紹介 ①

7N2JZT 本田 紀之さん

旅と電信(CW)とアワードを楽しむ若者, Nori さんです. シャックはたいへんシンプルで, アンテナもルーフタワーに展開した小さな八木アンテナなどですが, CWならではの運用テクニック(光速CWで有名!)を駆使して, 各バンドにアクティブです.

多忙な仕事の合間を縫って沖縄への「旅」を楽しむ....., 旅先では無線だけで過ごさず, 必ず地元の観光を体験する....., というポリシーで運用を楽しまれています.

最初は430MHzのFMハンディ・トランシーバによる運用からアワード・ハンティングを始めたというJAG(ジャパン・アワードハンターズ・グループ)の会員です.



7N2JZT 本田さんとシンプルなシャック

## 1-2 アワードを楽しむための運用スタイル

本項では, 実践における運用のヒントを紹介します. それぞれ「必ず」という決まりはありませんが, 参考にして, 自身のスタイルを見つけましょう.

### 1-2-1 交信記録を付けておこう

無線設備が整っても, ただ交信するのではなく, 写真1-4に示す業務日誌(ログ)で交信記録を付けておきましょう. 相手局のコールサイン, 交信日時, 周波数, QTH(運用場所), 名前などを書いておけば, 後でQSLカードが来たときにチェックできます. また, ノートに交信データを書き込んでおかまいません. パソコンの表計算ソフトを利用するのもFBでしょう.

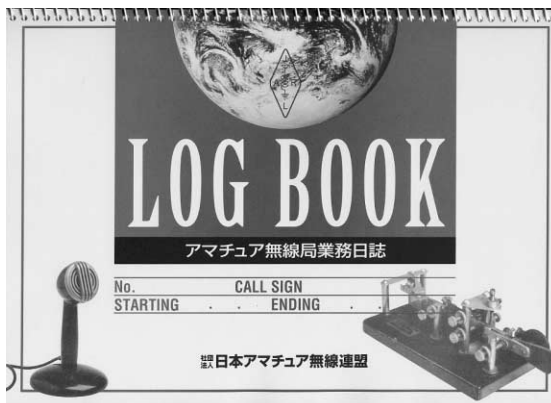


写真1-4 JARL仕様のアマチュア無線局業務日誌(A4サイズ)